

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成25年1月17日(2013.1.17)

【公表番号】特表2010-520924(P2010-520924A)

【公表日】平成22年6月17日(2010.6.17)

【年通号数】公開・登録公報2010-024

【出願番号】特願2009-537387(P2009-537387)

【国際特許分類】

C 08 G 59/50 (2006.01)

【F I】

C 08 G 59/50

【誤訳訂正書】

【提出日】平成24年11月26日(2012.11.26)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0082

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0082】

エポキシ樹脂と脂環式ジアミン類の硬化反応を評価するために、示差走査熱量測定法(DSC)を利用する。エポキシ樹脂をベースとするビスフェノールA(EPOON(登録商標)828、She11社から入手できる)をジアミン(本明細書ではUNOXOL(登録商標)ジアミンと呼ぶ、1,3-および1,4-ビス(アミノメチル)シクロヘキサンのシスおよびトランス異性体を含むアミン硬化剤混合物(サンプル1)、またはイソホロンジアミン(IPDA)(比較例I)のいずれか)と、1:1の当量比で混合し、硬化反応試験をDSCにおいて20乃至120、1/分の加熱速度で実施する。反応に対する加熱流動の温度が最高値に達する温度が硬化温度と見なされる。UNOXOL(登録商標)ジアミンとEPOON(登録商標)828との硬化反応は65.14でピークを示し、これは両方のアミン基が類似の反応性を示すからであるが、イソホロンジアミン(IPDA)とEPOON(登録商標)828との硬化反応は69.75および93.69で2つのピークを示し、これはIPDA中の2つの相違するアミン基の反応性における差に一致する。この結果は、UNOXOL(登録商標)ジアミンがIPDAよりもエポキシ樹脂に対して相当に反応性が高いことを証明している。そこで、UNOXOL(登録商標)ジアミンを使用すると、IPDAより低温でエポキシ樹脂を硬化させることができる。

【語訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0084

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【表1】

表1

特性	サンプル1 UNOXOL(登録商標)ジアミン 硬化エポキシ1	比較サンプル1 イソホロンジアミン硬化エポキシ
接着(重ね剪断応力、psi)	432	248
加水分解抵抗性	優れた外観	膨れ